COMPACT DTM SYSTEM!!

DUO-CAPTURE EXとA-49を使って コンパクトなDTM環境を作ろう

ラップトップPCやモバイル・デバイスの進化で、音楽制作を取り巻く環境も大きく変化しつつあります。しかし、手軽さを優先するとクオリティが犠牲になりがち。そんな従来のイメージを払拭してくれるのがUSBオーディオ・インターフェース「DUO-CAPTURE EX」とMIDIキーボード・コントローラー「A-49」です。いずれのモデルも本格的なサウンド/使い勝手と手軽さを両立した、今の時代にフィットした製品です。詳しく見ていきましょう。

AUDIO INTERFACE

コンパクト・ボディに妥協のないサウンドを凝縮
DUO-CAPTURE EX

Rolandのキャプチャーシリーズと言えば、低価格ながら高い品質と安定性で人気のオーディオ・インターフェースですが、上位機種のクオリティをもっと身近に手に入れられるのがDUO-CAPTURE EXです。従来のDUO-CAPTUREからボディが一新。定番のQUAD-CAPTUREやフラッグシップ、STUDIO-CAPTURE同様の堅牢なアルミ・ボディを採用しています。このアルミ・ボディは見た目の高級感だけでなく、電磁波によるノイズの影響を受けないというメリットも見逃せません。パソコンや周辺機器と合わせて使うアイテムですから、電磁波をカットできるというのは高い音質を維持するためには必須なのです。

最大24bit／48kHzで2 IN／2 OUT仕様という基本スペックは従来モデルから変化していませんが、入出力端子は格段にレベルアップしています。アナログ入力はXLR/TRSコンボ・ジャックが採用され、Hi-Zやファンタム電源にも対応したことであらゆるタイプの楽器を接続可能です。そして、音質を左右するマイク・プリアンプは上位機種で高い人気を得ているVS PREAMPを搭載！　音質を最優先に考えられたアナログ回路設計により、クリアなサウンドが得られます。もちろん出力はTRSバランス仕様でノイズ・レスなモニター環境を構築できます。

さらにはUSBバスパワー/電池/ACアダプタの3種類の電源方式に対応しているのもポイント！　後ほど詳しく紹介しますが、PCやMacはもちろんiPadやスタンドアローンまで、あらゆる用途に柔軟に対応してくれます。DUO-CAPTURE EXは、本格的なサウンド・クオリティをモバイルしたい人の決定版とも言えるUSBオーディオ・インターフェースです。

■価格OP（市場予想価格17,000円前後）　●オーディオ録音再生チャンネル：録音＝2、再生＝2　●信号処理：24ビット　●サンプリング周波数：48kHz/44.1kHz　●接続端子：INPUT 1、2※1＝XLRタイプ（バランス、ファンタム電源＝DC48V、6mA※2）、PHONE（ステレオ標準タイプ）、OUTPUT 1、2＝TRS標準タイプ（バランス）、MIDI IN/OUT（5ピンDINタイプ）、USB（Bタイプ）、DC IN　●電源：USB、アルカリ電池または充電式ニッケル水素電池（単3形）×3本、ACアダプター（別売）　●外形寸法：（W×H×D）：154×119×47（mm）　●質量：460g（電池含まず）　●付属品：取扱説明書、DUO CAPTURE EX Driver CD-ROM、SONAR LE DVD-ROM（Windows）、SONAR LEインストールガイド（Windows）、USBケーブル、アルカリ電池（単3形）×3本

MIDI KEYBOARD

鍵盤楽器としての演奏性を追求
A-49

MIDIキーボード・コントローラーは、DAWソフトでの音楽制作に欠かせないもう1つのアイテムです。同時に、使用するキーボードによって打ち込みの精度や表現力…つまり楽曲のクオリティをも左右する重要な機材でもあります。

A-49は鍵盤楽器の基本である鍵盤の質感にこだわった、MIDIキーボード・コントローラーです。しっかりとした重みもあり、演奏をそのままMIDIデータに反映させることができます。当たり前のようですが、ミニ鍵盤や低価格帯のMIDIキーボードでは打鍵時に鍵盤がブレてしまったり、タッチが軽いものが多く、そういったモデルでは弱いタッチで弾いたつもりでもベロシティ値が高く入力されてしまったり、連打やグリスといった奏法時に影響が出るなど様々な問題が起きるのです。鍵盤部分へのこだわりは、シンセ・メーカーであるRolandならではと言えます。

コントローラー機能も必要十分。ピッチ／モジュレーション・レバーに2つのボタンとノブ、オクターブ・ボタンとトランスポーズ・ボタンをコンパクトに凝縮。ボタンとノブには自分の好きなMIDIコントロールをアサインすることができます。また、INTEGRA-7やJupiter-80などのSuperNATURAL音源に最適なコントロールを自動アサインするSuperNATURALモードといったユニークな機能も備えています。さらには手をかざす位置でパラメータをコントロールできるD-BEAMも搭載。スリムなボディはデスク上の限られたスペースにも無理なく設置することができます。

■価格OP（市場予想価格16,000円前後）　●鍵盤：49鍵（ベロシティ対応）　●コントローラー：ボタン＝S1、S2（アサイナブル）、つまみ＝C1、C2（アサイナブル）、フットペダル＝ホールド、エクスプレッション、ピッチベンド／モジュレーションレバー、Dビーム・コントローラー　●接続端子：HOLD（標準タイプ）、EXPRESSION（TRS標準タイプ）、MIDI OUT、USB（タイプB）　●インターフェース：USB　●電源：USB端子より取得　●外形寸法（W×H×D）：836×182×84（mm）　●質量：460g（電池含まず）　●付属品：取扱説明書、A-49 CD-ROM、USBケーブル、SONAR LE DVD-ROM（Windows）、SONAR LEインストールガイド（Windows）

MOBILE DTM

DUO-CAPTURE EX / A-49 + iPad
いつでもどこでも、本格的な音楽制作環境を持ち歩こう！

DUO-CAPTURE EXとA-49の大きな特徴が、PCやMacだけでなくiPadでも利用可能という点です。iPad向けの音楽アプリも日々進化しており、iPadでも音楽制作をしたい！　という方も多いのではないでしょうか。しかし、本格的に使おうと思うとiOS用のオーディオ・インターフェースやMIDIキーボードでは物足りなく感じるはずです。そんなときDUO-CAPTURE EXやA-49を使えばiPad環境でもパソコンのDAWシステム同等の入出力環境を実現することができるのです。いくつか使用例を見ていきましょう。

CASE 01
iPadで本格的なレコーディングを

本格的なクオリティのレコーディングを、モバイルでも…という人にはDUO-CAPTURE EXとiPadの組み合わせがオススメです。乾電池駆動も可能なDUO-CAPTURE EXをApple iPad Camera Connection Kit（第四世代iPad/iPad miniの場合はLightning – USB カメラアダプタ）を使って接続することで、iPad用のオーディオ・インターフェースとして利用することが可能。GarageBandなどのアプリと組み合わせれば、USBケーブル1本だけでVS PREAMPのクリアなサウンドを活かしたレコーディングが行なえるのです。

ポイントはiPadでもすべての機能が利用できるという点。例えばコンデンサー・マイクを利用したい場合、従来のiOS用オーディオ・インターフェースでは、iPadからの電源供給の関係でファンタム電源が利用できなかったり、別途ACアダプタが必要というケースがほとんどでしたが、DUO-CAPTURE EXは背面のスイッチをONにするだけでファンタム電源の供給が可能です。さらにはiPadでもMIDIインターフェース機能を利用できるので、オーディオとMIDIを同時に扱ったりダイレクト・モニターなどあらゆる機能を活かすことができるのです。

ここまでできると、活用の場は大きく広がります。自宅でのレコーディングが難しい生楽器を収録したいとき。従来ならスタジオまでノート・パソコンとオーディオ・インターフェースを持って行く必要がありましたが、同じクオリティを遙かに少ない荷物で実現できるのです。当然ギターも接続できますから、スタジオやライブの前にヘッドホンで個人練習をすることもできますし、フィールド・レコーディングにも便利です。また、アルミ・ボディによりノイズの影響を受けにくいのでライブのオケ出しやBGM用…など使い方はアイディア次第。モバイルでも本格的なサウンド・クオリティを実現できるのです。

写真5　USBバスパワーで動作するDUO-CAPTURE EXとA-49の組み合わせは、シンプルながら高クオリティの音楽制作が可能です。

CASE 02
シンセ・アプリを演奏する

A-49を使えば、ピアノやシンセサイザーなど楽器のサウンドを再現するアプリを"演奏"することができます。アプリ上の鍵盤をタップすることで音を出すことはできても、演奏とは違うもの。楽器として演奏したい場合にはMIDIキーボードが欠かせません。

A-49もDUO-CAPTURE EX同様にApple iPad Camera Connection Kitを使ってiPadで利用することが可能です。iPadはパソコンのように起動やセッティングの手間が掛かりませんから、音を出したいときにすぐプレイすることができますし、iPad上のシンセ・アプリをライブのサブ・キーボード・システムに使うのも良いのではないでしょうか。

写真6
DUO-CAPTURE EXをバッテリー駆動させれば、iPadのオーディオ・インターフェースとしても利用可能！　本格的なモバイル・レコーディング環境を持ち歩くことができます。また、MIDI入出力端子を利用すれば、外部MIDI機器の利用もOK！

CASE 03
手軽に使える音楽制作環境を構築する

この2つを組み合わせることで、iPad上に実践的な音楽制作環境を構築することも可能です。DUO-CAPTURE EXとA-49をUSBハブでまとめ、それをiPadに接続すればオーディオとMIDIを同時に扱うことができます。メーカー推奨の使い方ではないので自己責任で…ということになってしまいますが、パソコンのDAWソフトと同じ感覚でオーディオやMIDIの演奏/録音が行なえる魅力的なシステムが構築できます。

例えば思いついたフレーズを録り溜めたり、簡単なアレンジ程度であればiPadでも十分ですから、デモ・テープ段階ではiPadで。より細かく作り込みたいときにはDAW…といった具合に用途に応じて使い分ければ快適な音楽制作が行なえます。USBケーブルの接続先を変えるだけで、パソコンでもiPadでも同じサウンドと環境で作業できるというのはDUO-CAPTURE EX、A-49ならではの活用法と言えるでしょう。

写真7
電源供給タイプのUSBハブを利用すれば、DUO-CAPTURE EXとA-49を同時に利用することも可能。GarageBandなどと組み合わせれば、パソコン上のDAWシステム感覚で使うこともできます。MIDI機器の利用もOK！

DUO-CAPTURE EXとA-49は、本格的な音楽制作環境をより身近に実現できる魅力的なモデルです。パソコン環境はもちろん、iPadを音楽制作に活かしたい人はぜひチェックしてみてください。